

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 自動運転

5 自動運転が拓く未来
東京工業大学 教授
朝倉康夫

8 必要なのは人の研究
モータージャーナリスト/ノンフィクション作家
岩貞るみこ

12 ぶら〜り首都高めぐりの旅
3号渋谷線の巻

13 CHALLENGE
SNSによる交通情報サービス改革

14 Taste of the Season
森下典子

16 首都高HEADLINE

18 BUSINESS ESSAY
自動運転が起こす時間革命
精神科医
樺沢紫苑

20 つくる人まもる人
首都高速道路株式会社
宝子丸薫子 野木裕輔

22 高速百景 中野正貴

contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited



illustration by Takao Nakagawa

column | RAMPWAY 39

首都高名所案内

江戸橋の両岸
小網町と兜町

コラムニスト
泉 麻人

江戸橋の名は中央区の町名にはない。昭和通りが日本橋川を渡る橋にその名が付けられているけれど、江戸橋というとまずイメージされるのは首都高のジャンクションだ。
僕がこの江戸橋周辺で好んでいるのは、日本橋川北岸の小網町の地域。人形町を散策するときに、寄り道することがよくある。甘酒横丁から続く店の並びが途切れたあたりの横道に小網神社というのがぼつんとあって、ここに

は銭洗い弁天（金運の神）が祀られている。蛸殻町の表示の出た大きな交差点のちよつと裏路地には「喜代川」という老舗のうなぎ屋がある。ビルの谷間のいかにも隠れ家風の日本家屋。そのすぐ先にもう1軒、「桃乳舎」という魅力的な店がある。桃乳舎——なんていう屋号からして、ここは明治時代の乳牛業者が始めたミルクホールから続いてきた洋食屋で、いまの建物も昭和戦前の建築と聞く。

永井荷風の随筆などを読んでいると、明治40年代くらいに開店した「メゾン鴻ノ巣」というカフェの草分けの話が出てくるのだが、そのメゾン鴻ノ巣って店も小網町にあつたらしい。川際のこのあたり、オシャレなウォータフロントだったのだ。
蛸殻町交差点の先の鍛橋を渡ると、兜町の証券街に入る。東京証券取引所（以下「東証」）のビルは新しくなつて、

東京株式取引所が置かれた折に、株商いの神様として勧請されたらしい。境内に「兜町」の由来とされる、兜岩というゴツイ岩が安置されているが、東国進軍の戦勝を願って源義家が岩の下に兜を埋めたとか、いや藤原秀郷が平将門の兜を埋めたのだとか、諸々の伝説が存在するようだ。
この神社のもうすぐ先は江戸橋の南詰。橋際に建つ（日本橋ダイヤビル）の俗称をもつ三菱倉庫のビルは昭和5年の竣工というから、目の前の昭和通りの建設に合わせてできあがったのかもしれない。上階の方のカマボコ型の窓、そこに付けられたバルコニー……見上げるとなかなか凝ったデザインである。

いまだき株の売買はデスクのパソコン主体になったようだが、バブル経済が盛り上がりはじめた1980年代の後半、雑誌の取材で立会場の場立ちをナマで眺めたことがあった。そこかしこで敏速な手サインによる取引が交わされる、数値のセリミみたいな光景が脳裡に刻まれている。
東証の横道の川側に建っている日証館ビルは昭和初めのコンクリートビルの趣きを留めている。（日本橋公証役場）とか、ちよつと古めかしい質感の突き出し看板が外壁に掲示されているが、ひと昔前の兜町は中小の証券会社のこういう突き出し型の看板がずらりと並んでいたものだ。

ちなみに、江戸橋というくらいに橋は江戸の1600年代後半には存在したようだが、古地図を見ると少し下流、いまの江戸橋ジャンクション合流点の真下あたりに渡されていたようだ。

クラシックな日証館ビルの傍らに兜神社という名の社がひっそりとあるけれど、この社は明治11年に東証の前身・

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に「1964 前の東京オリンピックのころを回想してみた。」(三賢社)がある。